

お名前	性別	満年齢	終戦時の年齢	現住所
山田 <small>しげさか</small> 重榮	男性	82歳	17歳	中宇利

① 8月15日は、どこでどんなことをしていましたか。

助かったということで頭が白くなり、思い出すことすらできないショックを受けました。

② 終戦のことを、どこで、どのように聞かれましたか。

ラジオで天皇てんのうの放送で知ったと思う。

③ 敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子

何もかも無くなってしまったけど、終わってよかったと思う。でもショックだけは残っていたようです。

④ 体験の中で、子どもたちに語り伝えておきたいこと

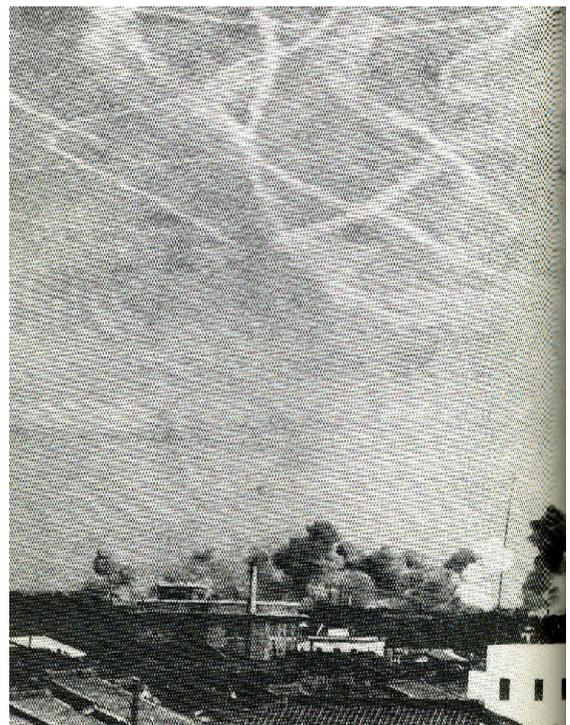
「名古屋空襲の恐ろしさと美しさ」

私は、戦時中は名古屋で学生生活（愛知第一師範学校）を送っていましたが、勉強はあまりしませんでした。学徒動員で、今の名古屋ドームの所みつびしにあった三菱重工業へ航空機の部品作りに2年ぐらい通いました。朝7時30分から午後5時30分ごろまで働きました。

敵機が来ると、サイレンで知らせてくれます。名古屋空襲の第一回目は、昭和19年12月のことです。三菱重工業*1が標的だったと聞かされました。私たち大学生と市立第三高等女学校からの動員をふくめ、約5,300人ぐらいが働いていました。空襲の目的地になっているため、工場の防空壕ぼうくうごうは危ないと予想し、約1kmぐらい離れた守山の緑地ひなんにある避難用の防空壕へ避難させたそうです。

ところが、その日の上空は風が強くて、三菱に落とした爆弾ぼくだんが風に流され、女子学生の入っている防空壕を直撃ちよくげきしました。後で兵隊さんに聞いたことだけど、みんな亡くなったとのことでした。工場は最初は被害はありませんでしたが、3回目ぐらいの空襲で工場も爆弾でやられてしまいました。

空襲後、私たち学徒は、守山で亡くなった女子学生の片づけに1週間ぐらい通い、



▲ 燃える三菱重工 「写真集 愛知百年」より

*1 P-43-, P-44-参照

トラックにバラバラになったもの(死体)を八事の焼き場のある所まで運んで、処理の手伝いをしました。

美しさというのは夜間の空襲のことです。名古屋市郊外に高射砲陣地があって、その近くに「探照灯」という照明器具がありました。敵機を電気で照らして探し出し、打ち落とすのだそうです。地上から幾本かの緑の光が敵機に当たると、機体のジュラルミンに反射し、空中に浮かびあがります。今でいうアニメのように美しく見えました。しかし、敵機はそれに気づき、光源を目当てに機関砲を逆に撃ってきます。玉が探照灯に当たり、はじめは20数本あった探照灯も2～3回の空襲で、全部破壊されたんじゃないかと思います。

当時私は、ラップ手を務めていました。夜間空襲時、みんなは防空壕に避難しますが、ラップ手は寮の屋根にのぼり、敵機の動向をみんなにラップで知らせるのです。はじめのうちは何も思わずにやっていたのですが、何回もの空襲で学校の周りが焼夷弾で焼け落ちるのを屋根の上から見ていると、何とも言えない気持ちになりました。木造の家はほとんど焼けてしまい、残ったのはセメントの建物ばかりでした。東区から名古屋城や名古屋駅、栄町まで見ることができました。名古屋城が焼け落ちる時も近くにいたのですが、立ちのぼる煙ではっきりとは分かりませんでした。

終戦近くになると、B29から「宣伝ビラ」(B6サイズぐらい)が名古屋中にばらまかれたこともありました。戦争を続けてもむだだから、「早く降伏しなさい」といった内容でした。

昭和20年6月19日の豊橋空襲の時は、渥美の高松の寺に泊っていました。大清水から大崎までのトンネル地下壕の建設に朝鮮人を使っていたので、兵隊さんと一しょにその監督をしていました。豊橋の食糧倉庫が焼けてしまったため、配給される食糧(特米*1、大豆、麦など)は焼夷弾の油がしみ込んでいました。一口食べたけど、油くさくて食べられたものではありませんでした。腹をすかせた状態で10日ぐらいすると、地元の漁師が見るに見かねて、海へ漁に出て魚をとってきてくれました。それを食べて、やっと生き返ったようだと言っていました。苦しい時の人の親切ほどありがたいことはありません。高松の漁師の人たちのことは忘れられませんね。

終戦近くになり、B29から電探妨害*2のためにひも状のアルミ箔(幅3cmぐらい、長さ約10m～20mぐらい)がバラまかれたこと、豊橋空襲後に太平洋へ出るB29が、操縦士の顔が見えるほど高度をグリーンと下げ、ゆうゆうと飛び去っていったことなど、一コマ一コマが鮮明に思い出されます。

*1 兵隊用の供出米を特米とよんでいた。

*2 電波探知機を妨害すること